

第 11 回 尼崎市総合計画審議会 議事録

日時	平成 24 年 4 月 6 日（金）18：30～20：30
場所	すこやかプラザ 多目的ホール
出席委員	赤井委員、稲垣委員、加藤委員、川中委員、川向委員、北村委員、佐竹委員、塩見委員、辻委員、濱名委員、林委員、久委員、丸岡委員、山本（正）委員、義村委員、渡辺委員
欠席委員	赤澤委員、澤木委員、白石委員、高岡委員、高濱委員、土谷委員、中村委員、長村委員、東田委員、弘本委員、藤池委員、安田委員、山本（起）委員、吉田委員
事務局	吹野企画財政局長、蟻岡政策部長、塚本行財政改革部長、中川政策課長、安川行財政改革課長、奥平総合計画担当課長、太田協働・男女参画課長、総合計画担当

開会

- 委員出欠報告、配布資料確認（事務局）
- 会議録署名委員の指名（会長より名簿順に 2 名を指名）
（資料確認）

1 尼崎市総合計画審議会答申（案）について

会長

本日は、まず、前回の総会等の意見を踏まえて修正を行った「総合計画の答申案」の確認を行い、その後に、新たな総合計画を表す「キャッチフレーズ」について審議していきたいと思う。

それでは、次第 1 の「尼崎市総合計画（答申案）について」、事務局から説明願いたい。

事務局

- （資料 1 説明）
- （資料 2 説明）

会長

今回で、ほぼ最後の詰めということになるので、その点もお含みいただき、各委員、お気づきの点などについて、ご確認いただきたい。

なお、市議会に設置された特別委員会からのご意見についても踏まえながら審議を進めて行きたい。

それでは、ご意見をいただきたい。

委員

この計画の中で、東日本大震災については記載されているが、災害は震災だけではない。原子力災害について触れておくべきではないか。

委員

これまで議論を経て中身を詰めてきた。この計画の中では、行政運営について、さらりとしか書いていないが、どう動かしていくかが、この10年間の勝負ではないかと思う。審議会が終了しても、進行管理の部分で一緒に考えていきたい。今回の計画では指標が設けられているが、今後は、これを追っていかなくてはならない。今日はそういった部分も議論しながらもう一度、書きぶり等を確認していきたい。

委員

P80で「効果的な行政運営」という表題があるが、最近は「実効力」ということがよく言われる。「実効力のある行政運営」など、実現性を意識して強調したほうが良いのではないか。

会長

表現については、事務局で検討していただきたい。

委員

P79に「公共サービスの主たる担い手であることにあわせて」とあるが、「主たる」という表現では、市民や事業者が「従たる」担い手というニュアンスがあるので、協働の観点から相応しくないのではないか。削除してはどうか。

会長

その言葉を抜いてしまうと、逆に行政が「全て」担っていると見えなくもない。表現上のことなので、事務局で検討いただきたい。

委員

施策の順番について前回も申しあげたが、地域コミュニティから始まっている。私はこの順番にはこだわりたい。「施策04・健やかに子どもが育ち、笑顔が輝くまち」が最初に出てきて欲しい。地域コミュニティも大切だと思うが、尼崎の計画として、子どもについてどう扱うのか、その部分を出していきたい。

会長

どの政策の優先度が高いという訳ではないが、順番で受ける印象もある。別の施策の順番についてのご意見もあれば。

事務局

原子力災害の問題については、以前にも議論があった部分であるが、その中で、ありたいまちの4番目、「次の世代によりよい明日をつないでいくまち」の中で、将来負担を少なくしていくという観点で読み取れるという考え方であった。

また、施策の順番については、事務局として優劣をつけているものではないが、ここで改めて順番を入れ替えるということで、優劣をつけるということになるのではないかと、思う。施策間の関係については、優劣ということではなく、P30からの施策ネットワーク図の中で、学校教育や地域コミュニティなどが、ありたいまちに向けて大きな役割を果たしている

ということを表していると考えている。

委員

原子力災害の問題は、現在進行形の問題である。アメリカでは80km圏内をすぐに避難区域とするが、福井から80km圏内は川西市あたりであり、尼崎は100km圏内にある。こうした現状の中でやはり触れておくべきではないかと思う。

また、ありたいまちについては、やはりわかりにくい。この議論が始まったのは政権交代の時期であり、時代の転換期かと思われたが、個人的な感想からすると大きくは変わらなかった。例えば少子高齢化や労働者派遣法の問題など対応できていない。尼崎として、どう対応していくのか。この計画でも施策としていろいろ書かれているが、個別課題をどう乗り越えていくのか、ということがはっきりしていない。

会長

総合計画はどうしても、全体的なものになり、個別の大胆な提案は難しいのではないかと思う。

私の全体的な感想を言わせてもらおうと、いま、人口減少をどう乗り越えるかということが問題になり、成熟社会・縮退という言葉も聞こえてくるが、成熟社会というのは、これまで成熟に至るまでの経験をしてきた人達が言うことであって、現在の若者が希望を失っているのは、これまでの社会の後始末をさせられそうだと、ということではないかと思う。「下山の思想」ということも言われるが、ただ山を降りるというだけではなく、次の社会を担っていく人達が希望を持てるような構図を示すことが、総合計画の重要な役割だと思う。

この総合計画もここまでまとまってきた。大胆にこうする、という部分を示すのも難しいが、意図も含まれていると思っている。

委員

指標の中に空白になっているところがあるが、進捗状況を測っていくという意味からも、値は最終段階で示されると思っていて良いか。

また、ネットワーク図は、文字があまりに多く、視覚的に捉えるものとしては、少し読む気にならない。もう少し工夫していただきたい。

事務局

指標については、現在集計中の市民アンケートの数値を用いているものもあり、現時点では空白であるが、次回には全て埋まっている状態で提示する。

ネットワーク図の文字については、工夫したい。

事務局

ネットワーク図については、これまでの審議を踏まえて、展開方向を基に落とし込んだものであり、結果としてこういうものになったので、ある程度、ご理解いただきたい。フォントを工夫する等の余地はあると思うので、良いアイデアがあればご教示いただきたい。

会長

直感的なわかりやすさを意図しているものであると思うので、ご配慮いただきたい。

委員

原子力災害について話があったが、震災、津波と様々な災害リスクがある中で、全てのリスクを書くことは難しい。以前であれば新型インフルエンザが取り沙汰された。このような計画には、その時々で大きく問題となったことが取り扱われるが、そういった経験から何を導きだして、何を書くのか、あるいは書かないのかという部分が決まってくると思う。個人的には、いくら想定しても様々なリスクは出てくるため、どのように対処していくのか、どう備えを充実させていくことが大切だという前置きとして書くことが重要であると思う。

環境に取り組んできた者としては、原子力という、ひとつのシステムに頼ってきたことが大きな問題ではないか、と思う。今後、太陽光発電など、もう少し小さく、ハンドリングしやすいもののネットワークに変えていくことになっていく。我々もそこにに関わり、システムを変えていくことが大事だと思う。そういう観点から、例示として原子力災害のことを書くこともできるが、また違った観点で原子力災害を書くべきという方もいらっしゃるだろう。どういう観点から、原子力災害を捉え、書くのかということをお場で議論しておかないと、事務局では判断できないのではないかと。

委員

委員のお話はよくわかる。ここでの私の意見の意図としては、尼崎市の計画の中で、原子力災害についても被害を蒙る可能性のある災害のひとつとして想定しておくことが必要なのではないか、という意図である。原子力発電が良いのか、悪いのかという問題意識ではない。現実には、問題としてあるものとして触れないのも不自然ではないか。ということで申しあげた。

委員

原子力災害の問題について述べたのは、前回の基本構想から20年が経過している中で、また次の地震が起きる可能性が非常に高まっているという認識からである。

少し別の話であるが、施策ネットワーク図の中に、3つの施策が直線で繋がっているように見える部分があるので、正確に表現して欲しい。

委員

原子力災害の話について、総合計画として、そこまで書くのは難しいかもしれないが、「尼崎市としては、いわゆる「想定外」が免罪符になるとは思っていない」と書き、市民に対して信用してください、という姿勢を示せばよいのではないかと。想定外のこと想定内のことを全て書くのではなく、そういったニュアンスを盛り込めばそれで良いのではないかと、思う。

委員

私が議論を蒸し返したのは、それぞれの委員の意見方向性が少し違うと感じたからである。整理しておく必要がある。辻委員の提案だと冒頭、P5の部分の中に盛り込むという形になると思う。塩見委員の意見であれば、どこかに例示として入れれば対応できると思う。

委員

例示としてP5の表現の中に書いていただければ構わないと思う。

委員

福島原子力災害にしても、東日本大震災のひとつであり、人災であったかどうかという議論もあるが、これは今後も国民的な議論がなされていくであろうと思う。あえて、尼崎市の総合計画の中に書く必要はないのではないか。

委員

災害には自然災害もあるが、JRの列車事故などの人為的な災害も含めて、災害という枠組みの中で捉えられる。そうした中で、原子力災害について、ここで書かなくても既に含まれているものであり、そういったものを含めて受け止めていくという記載があれば充分ではないか、と思う。

会長

ご意見を伺っていると、原子力という言葉を入れるというよりは、減災という大きな考え方を示していくという方向でまとめられるかと思う。想定を超える状況もあり得ることを念頭に置いた表現でいいのではないかと。

委員

原子力災害については、含まれているといえれば含まれている。会長のまとめで結構かと思う。

会長

この部分については、事務局の方で、こういった有意義な議論があったことを踏まえた表現にしていきたいと思います。

2 新たな総合計画を表すキャッチフレーズの検討について

事務局

(資料3説明)

会長

自由にご意見いただきたい。

委員から具体的なお提案をいただいたのでご説明があれば。

委員

総合計画という名称は、硬いという印象があったのでスプリングプランという案を提案した。それだけでは少し伝わりにくいかと思い、下の副題をつけた。イメージとしては、泉のようにまちを潤したい、良くしたい、という考え。

委員

「ずっと、もっと、あまがさき」では、総合計画としては軽いという気がする。中核市で

ある尼崎市の総合計画のキャッチフレーズとしては、もう少し重みがある文言の方が相応しいと思う。産業や環境といった言葉もキーワードである。市制100周年ということもあり、次の100年を見据えたものであっても良い。「ずっと、もっと」では重みがない。

委員

市民公募では、なかなか計画の内容に沿ったキャッチフレーズをつけるのは難しいのではないかと、思う。事務局で決めてもらってもいいのではないかと、いう気もするが、事務局としてはどうか。

委員

事務局の説明の中であった、「公募も良いアイデアであると思うが」、というところをもう少し説明をお願いしたい。

事務局

公募については、前回の総会で委員からいただいた提案である。計画案についてのパブリックコメントと同時に市民からキャッチフレーズを公募してはどうか、というご意見であったが、時期的な制約があり、パブリックコメントと同時にできなかった。

一方で、前回の議論で、計画の内容がわからないとキャッチフレーズはつけられない、という部分もあり、計画策定後、市民説明会等を開催し、内容や考え方を説明する中で、市民の方と一緒に、計画に相応しいキャッチフレーズを考えていくのも選択肢としてあるのではないかと、考えている。そうした方法も含めて、ご議論いただきたい。

委員

せっかく作る総合計画なのだから、市民と一緒に考えても良いと思う。概要版などを市民に読んでいただいて、内容に相応しいキャッチコピーを募集する。副賞的なものをつけても面白いし、そういうチャンスがあるのであれば、活かしてもらいたい。

会長

事務局から提案があったように、この場では決めないで、市民と情報を共有し、議論する中で一緒に考えていくというのも、あまりこれまでなかったアプローチではないかと、思う。

委員

私も公募は良いと思う。まずは市民に総合計画を見ていただく、ということが必要であり、市民に触れていただくためのひとつだと思う。

委員

ノリで発言させていただくが、例えば、総合計画の冊子の表紙を全くの白紙で印刷しておいて、キャッチフレーズが決まったら、それが印刷されたカバーをつける、というやり方もあるのではないかと。最後に市民が名前をつける、という新しい打ち出しになる。

委員

大阪市も公募で名称をつけて、「大阪がはじまる」というコピーをつけた。市としてシティ

プロモーションに取り組む中で、尼崎のキャッチコピーを考えてもらうというのもあるのではないかと。

会長

様々な意見をいただいた。この議論を踏まえて、大きな流れとしては、市民の皆さんと考えていくといくことにして、何かひとつに決めるというよりは、事務局でキャッチコピーへのアプローチ方法について検討いただくということではどうか。

(了承)

事務局

その他事務連絡について、

本日のご議論を踏まえて、次回、最終案をご提示したい。キャッチフレーズについても、考え方を整理し、ご提示させていただきたい。次回は4月27日(金)13時30分から、この場所で開催させていただきたい。

会長

これで、第11回総会を終了する。

以 上